

まもる一む福岡 の「交流・活動の支援」をお伝えする

環境活動 NEWS 5 号

まもる一む福岡は、NPO や市民団体などによる環境活動を応援するため、交流やネットワークの場づくり、情報発信などの取組みを行っています。「環境活動 NEWS」では、その取組みの様子をご紹介します。本号から、まもる一む福岡アドバイザーによるコラムもスタート。今回のテーマは「海の生きもの写真」です。

生きものと私たちのくらしトーク・カフェ 第1回
「子どもの遊びと自然との出会い」

生きものと私たちのくらしトーク・カフェ 第2回
「秋の野草と Plantago な暮らし」

ふくおか環境連絡交流会
「生きもの写真でかたろう」

まもる一む福岡アドバイザーコラム
「海の生きもの写真、自慢の撮影機材」

特別講座
「カメムシってすごい！～嫌われ者の魅力にせまる～」

生きものと私たちのくらしトーク・カフェ 第1回

2021年7月18日(日)

「子どもの遊びと自然との出会い」

ゲスト：山下 智也さん(北九州市立大学准教授)

身近なテーマから生物多様性について考える「生きものと私たちのくらしトークカフェ」。今年度第1回は、北九州市立大学准教授で子どもの遊び場「きんしゃいきゃんぱす」代表の山下智也さんをゲストにお迎えました。



山下 智也さん

■ 子どもの遊び環境を大人が保障する

子どもは遊ぶことで、抱えている不安や悩みを発散したり、ほぐしたりしています。子どもの心を守るために大切な「遊び」。現代は時間、仲間、空間という3つの「間」がなくなり、子どもたちが外で「遊ばなくなった」のではなく、「遊べない環境」になったそうです。「本来、子どもの遊びの世界に大人の存在はなかったけれど、思う存分遊べなくなった責任は大人にある。そう考えると、現代の子どもたちの遊び環境を保障することは、私たち大人の役割ではないか。」と山下さんは言います。

■ 多様な自然と「自然に」出会う

山下さんが2004年に福岡市東区で始めた、地域の子どもの立ち寄りことのできる遊び場『きんしゃいきゃんぱす』。商店街という決して自然が豊かとは言えない場所で、どのような自然との出会いがあるのでしょうか。子どもたちは、公園にある草花とふれあったり、コップに雨水を集めてみたり、水たまりに映る自分の姿を発見したり・・・そこにあるもので十分楽しく遊ぶそうです。浜で捕まえたイカを、商店街の魚屋さんでさばいてもらってみんなで食べたこともあったとか。「自然」と言うと緑豊かな大自然を想像しがちですが、特別な場所に行かなくても、雨や石、土など、身近な所に十分に多様な自然があるのだといいます。そして、いきいきと遊ぶ子どもは、そんな自然と「自然に」



出会うことができるのだそう。「自然の魅力は、テーマパークなどのプログラムされた遊び場とは違って、コントロールできないところ。そこがおもしろい」と山下さん。子どもの遊びという視点から、新たな意味での自然の多様さや魅力に気づく時間となりました。

「秋の野草と Plantago な暮らし」

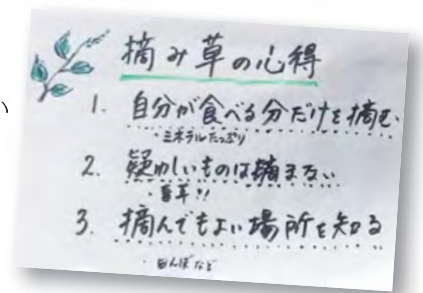
ゲスト：ゴトウタカコさん、キヨさん (Plantago)



福岡県の緊急事態宣言を受けて、完全オンライン開催となった第2回の「生きものと私たちのくらしトーク・カフェ」。オンラインの利点を生かしてまもる一む福岡を飛び出し、ゲストであるゴトウタカコさん【写真右】とキヨさん【写真左】が営むうきは市の野草ベージュ店「Plantago (プラントゴ)」さんにお邪魔し、Zoomでお届けしました。店名の Plantago はラテン語で、オオバコという意味。踏まれても踏まれても生きてくる、私たちの足元にある代表的な野草の1つです。クズの花が咲き、川のせせらぎが響くお店のテラスで、「秋の野草と Plantago な暮らし」をテーマにお話いただきました。

■ 野草散策の心得

はじめにゴトウタカコさん直筆のノートで、野草散策の際に大事なことを説明していただきました。摘み草の心得は、「自分が食べる分だけを摘む」「疑わしいものは摘まない」「摘んでもよい場所を知る」の3点。とても大事なことですね。あわせて、代表的な食べられる野草を紹介していただきました。



■ 野草の楽しみ方

お話の後は厨房に移動して、その場で野草料理を作ってくださいました。どれも絶品！

オンライン中継しながら調理した Plantago な野草料理



ヨモギとツククサとクワの葉、クズの花がのった野草のピザ



野草のフリット (イノコヅチなど)



クズの花のアイスクリーム

自生した野草がこんなに美味しいとは驚きです。ふだんの散歩道に生えている植物が、どれも宝物に見えてきますね！



■ 身近な自然や季節を楽しむ暮らし

Plantagoさんは、「豊かな自然に育った野草や生産者の思いが詰まった地元の旬の食材を味わってもらおう」ことを大切にされているそう。野草や旬の物を使うことで季節の変化を実感しながら暮らすことができるし、自分が住んでいる地域でとれた食材に関心を持てば、身の回りの環境の変化にも気付きやすくなりますよね。参加者からも、「自分が住む土地に生きている植物たちのことを、自分も知って次の世代へ伝えていくこと、大切ですよ。」という素敵な感想を頂きました。私たちの「食」について考えるとともに、身近な自然や季節を楽しみながら暮らすキッカケを頂いたトーク・カフェでした。

「生きもの写真でかたろう」

ゲスト：津田堅之介さん（動物カメラマン）



津田さんが実際に使用されている機材を紹介

環境活動や自然体験に関わる団体・個人を対象としたスキルアップと交流の場「ふくおか環境連絡交流会」。今回はゲストに動物カメラマンの津田堅之介さんをお迎えして、生きもの写真の撮影技術についてご講演いただきました。

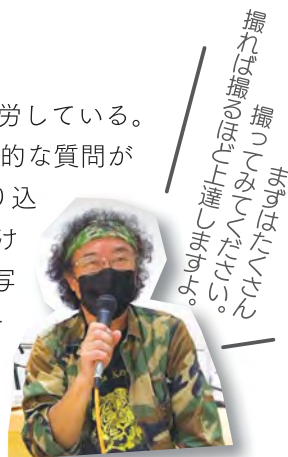
■ 写真撮影の基本

カメラやレンズの種類の説明から、知っているようで説明は難しいカメラ用語「絞り」や「シャッタースピード」などについて、初心者にも分かりやすく解説していただきました。また、本格的な機材がなくても、折り紙を使った手作りのレフ版や100円ショップで売っているスマホ用レンズ（魚眼、広角、マクロ）を使って撮影を楽しむコツを教えてくださいました。

みなさんの環境活動をより広く発信するために、すぐに活かすことができそうです！

■ 交流タイム

後半は、フリートークの時間。参加者からは、「動物は動きが早くてピントを合わせるのに苦労している。どうすれば上手く撮れる？」「野生のカモシカを撮影するためにはどこ行けばいい？」などの具体的な質問が出ました（九州に生息するカモシカの数はかなり減っていて、津田さんも1週間ぐらい車に泊まり込んでチャンスを待ったりしているそうです）。また、「生き物たちに迷惑にならないように気を付けて撮影や公表をしないといけませんね。」という生物保護の視点に立ったお話も。珍しい野鳥の写真がSNSに掲載したりすると人が殺到し、結果、いなくなってしまうそうです。撮影マナーについて考えたり、撮影での苦労話を交えながら、オンラインで参加者のみなさんと楽しく交流を深めることができました。



津田堅之介さん

まもる一む福岡アドバイザーコラム第1回
大神 弘太郎

「海の生きもの写真、自慢の撮影機材」



器材と合わせてなんと50kgもの重量になるんです。

博多湾には、実は色んな表情や色をした生き物がたくさんいます。多分皆さんが思っているよりずっと豊かな海です。もちろん課題もたくさん抱えている海ですが、この写真のように神秘的で美しい世界をこれからも残していきたいです。是非皆さんも、機会があれば博多湾の中を覗いてみてはいかがでしょうか。

一般社団法人ふくおか FUN 代表理事
大神 弘太郎

僕は普段、博多湾に潜って水中世界の撮影をしています。この写真も、その博多湾（地行浜）で撮影した「ウミサボテン」という生物です。

この写真では

カメラ：OM-D E-M1 Mark II
（オリンパス）

レンズ：60mm

水中ライト、水中ストロボ×2灯
を使って撮影しています。冬場だとダイビング



「カメムシってすごい ～嫌われ者の魅力にせまる～」

講師：岩熊志保さん（一般社団法人まほろば自然学校）

独特なニオイで嫌われ者になりがちなカメムシ。本講座では、そんなカメムシを「こよなく愛して尊敬している」一般社団法人まほろば自然学校の岩熊志保さんに、カメムシの魅力について熱く解説していただきました。



岩熊志保さん

■ カメムシの仲間は日本に 3000 種

はじめに、カメムシの基本的な特徴についてお話しいただきました。針のような口で植物の汁や動物の体液を吸うカメムシの仲間は、世界に 82,000 種、日本には 3,000 種ほどいるそうです。講座ではこの中から、岩熊さんイチオシの「ニシキキンカメムシ」や「アカスジキンカメムシ」といった色鮮やかで光沢のある美しいカメムシなどについてご紹介いただきました。



ニシキキンカメムシ

■ 色々なカメムシのニオイを嗅いでみよう

みんながカメムシを嫌う要因でもあるニオイ。カメムシのニオイの成分って、パクチーのニオイの成分に近いんですって。外敵から身を守る時や、カメムシ同士のコミュニケーションの手段として発するニオイはカメムシ自身にも強烈なようで、自分のニオイでひっくり返るカメムシもいるのだとか。なんだかわかりやすいですね。実際に色々な種類のカメムシを嗅ぎ比べてもらい、臭いカメムシとそんなに臭くないカメムシがいることを体感してもらいました。

■ 子育て熱心なカメムシ

実は子育て熱心なカメムシ。例えば、ボロボロノキの木の果実を食べる「ベニツチカメムシ」というカメムシは、お母さんが自分の体程の大きさもある実を、一生懸命、巣まで運んで、赤ちゃんに与えて育てるといいます。この日は、岩熊さんがベニツチカメムシの集団を見つけて持ってきてくださったので、じっくり観察することができました。



ベニツチカメムシ

参加者からもたくさんの質問があり、「カメムシはどこでニオイがわかるの?」という質問には、「脚や触角でニオイを感じる」と教えていただきました。脚でニオイがわかるなんてびっくりです。「人間と変わらない育児をしていた事に驚きました」「昆虫もがんばって生きているんだなと感動しました」などの感想もいただき、嫌われ者、厄介者とされがちなカメムシのイメージが大きく変わった一日でした!



カメムシって本当にスゴイ!

福岡市保健環境学習室「まもるーむ福岡」では、NPO や市民団体などによる環境活動を応援するための交流やネットワークの場づくり、情報発信などの取り組みを行なっています。環境活動に関心のある皆さん、活動に取り組む NPO 等の皆さん、ぜひお気軽にご相談・ご参加ください。



環境活動交流支援の取り組み

ふくおか環境連絡交流会
ふくおか環境活動発表会

特別講座
生きものと私たちのくらしトーク・カフェ

情報の収集・発信

福岡市保健環境学習室

まもるーむ福岡
MAMOROOM FUKUOKA

〒810-0065 福岡市中央区地行浜 2 丁目 1-34

☎ 092-831-0669

FAX 092-831-0670

開館 10:00 ~ 17:00

休館日は月曜日・火曜日

(休日の場合はその直後の平日)

年末年始 (12月28日～1月4日)

